

県外で営業できず 製造業者が危機感

知事と意見交換会

新型コロナウイルス感染症に関する県内製造業者と吉村美栄子知事による意見交換会が19日、県庁で開かれた。業種によって影響には差はあるものの、県外で新規営業ができない状況が続くなど、早期収束が見通せない今後に危機感を募らせる意見が出された。

県工業会(松村英一会長)と県中小企業団体中央会(安房毅会長)から関係者計7人が出席し、業界や自社の現状を説明した。

自動車部品については、メーカーによって状況は異なるとしながら、落ち込んでいた生産量は回復傾向にあると報告。一方で8月までの間、「営業意欲の低下



新型コロナウイルス感染拡大を受け、県内の製造業の現状などに関し情報を共有した会議 県庁

などにより廃業した協力工場があることも知ってほしい」と訴えた。

半導体は横ばいの状態で、第5世代(5G)移動通信システムの普及に期待を寄せる意見があった。食品関連では家庭用が好調な一方、業務用はインバウンド(海外からの旅行)の低迷などを背景に厳しい状況だという。

また首都圏や関西圏への移動が困難で、従来のような面談ができない不安を抱えながら、ウェブ商談で対応している事例も紹介された。苦境を乗り越えるため「異業種連携の新たな試みを展開していきたい」との提言もあった。(稲村裕介)